

## 議 事 録 兼 報 告 書

会議等名称	平成28年度 伊那市子ども・子育て審議会 第3回 保育園運営体制部会
日 時	平成28年10月7日(金) 午後6:30～8:00
場 所	伊那市役所 304会議室
欠 席 者	なし
議 題	保育園の運営体制について
議 事 内 容	
<p>1 部会長あいさつ</p> <p>いろいろな子育ての施策が新聞に掲載されていた。支援センターや病児保育、高遠保育園など子ども達や子育て世帯のため、一歩ずつ前進している。</p> <p>東京の幼稚園の運動会で、組体操をスポーツ店が入って指導していた。一部を委託して任せていた。企業ではなく地域が保育園に協力する形の参考になる。</p> <p>2 保育園の運営体制について</p> <p>&lt;事務局&gt; 保育園の運営体制における課題について説明          &lt;前2回の部会の意見など&gt;を口頭にて読み上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの課題から保育サービスを充実するどころか、今のサービスを継続していけるかが不安である。</li> <li>・子ども達を見守ってくれる保育士が大切である。</li> <li>・保育士の処遇が改善されて、実感できるくらい良くなれば良い。</li> <li>・小規模保育園でも存続が必要である。住む人たちの安心につながるのだから。</li> <li>・保育園がなくなってしまうのは、心の支えがなくなる。閉園はしない方が良い。</li> <li>・資格はあるが色々な事情で保育士をしていない人も多い。</li> <li>・非正規雇用ではなく、みんなを正規として雇用するのは難しい。</li> <li>・公立は採用試験・採用枠など正規雇用は少ない。私立は資質により非正規から正規という雇用もある。</li> <li>・小規模保育園でも良い面はたくさんある。</li> <li>・子どもが生き生きとでき、親も安心して子育てできる環境が大事である。</li> <li>・地域に密着し、地域の力を引き入れることができれば良い。</li> <li>・私立の方が特色を出しやすい。</li> <li>・私立の経営も楽ではない。苦しい時のフォローがないとつらいのではないかな。</li> </ul> <p>&lt;部会長&gt; 質疑及び皆さんの考えについて広く意見を求める。</p> <p>○説明後の質問</p> <p>&lt;委員&gt; 産業カウンセラーと保育士が不足していることについて話をした。保育園が若い人の職場として成り立っていないとの言葉。保育士も半分が男性であり時代の変化を感じる。就職先として考えてもらうには、生活の糧でなければならない。</p>	

- <委員> 原点に立ち返り、良い保育をするためには若い人材の育成が大切である。
- <委員> 中学生が職場実習に保育園へ入っている。そうした子ども達が上の学校へ行って社会に出た時、現実の中の職場を比較して、都市部など待遇の良い方へ流れるのは自然な流れである。
- <委員> 公立の正規保育士を増やすことができないか。
- <事務局> 職員の定員には条例での定めがあり、保育士が増えれば別の部署の職員を減らさなければならない。また、将来のことを勘案して毎年一定数で雇用して、保育士の年齢毎の人数を平準化できるようにしている。
- <委員> 課題にある「園児数の減少」と「未満児の割合による保育士の数」を分けてしまうと意味がわからなくなってしまう。  
非正規であっても、市が投資してきた人材。保育のノウハウが活かされるようにできれば良い。
- <事務局> 保育士の雇用について、これまで検討してきた内容についてのまとめを説明。
- <部会長> 質疑及び皆さんの考えについて広く意見を求める
- 説明後の意見
- <委員> より多くの保育士が安定的に雇用されるようになればというが、市は非正規の保育士でも複数年の雇用契約ならば安定的な雇用となるのではないか。
- <事務局> 非正規の保育士は単年雇用であるため、不安定である。より安定している嘱託職員は採用試験を受けて雇用、それで数年間ということになる。
- <委員> 嘱託職員の条件を良くして雇用を増やしたら今より安定するのではないか。
- <委員> 私立は公立に比べ、非正規から正規保育士として雇用する道が開けている。私立保育園が多くなれば正規雇用される保育士の枠も広がる。
- <委員> 私立保育園にするということは、起業者により経営するということか。
- <事務局> 今、保育園を経営している方が、他の保育園も経営するというケースもあれば、新規参入ということもあると思う。
- <委員> 近隣市町村と比べて伊那市の待遇の状況は。
- <事務局> 中の上くらい。
- <委員> 嘱託の条件を良くするなど、待遇改善に努めていただきたい。
- <事務局> 保育園の継続について、これまで検討してきた内容についてのまとめを説明。
- <部会長> 質疑及び皆さんの考えについて広く意見を求める
- 説明後の意見
- <委員> 私立保育園の方が公立より良いようなイメージを受けてしまう。実際とかい離していないか。
- <事務局> 保育園整備計画の休廃園基準により運用してきている。園児が少ない保育園をこの定数理論にこだわらず保育運営していくことを選択肢のひとつとして民間による保育園運営が考えられる。
- <委員> 保育士の雇用の中でも私立の話が出た。小さな保育園を私立保育園としてやってくれそうな人はいるのか。
- <事務局> 保育園経営をする事業者もある。地域が社会福祉法人を立ち上げて運営しているケースもある。
- <委員> 既存の園舎が使えて、定数理論が外せて、国、県、市の補助もあるから私立として

運営するのではなく、定数ルールを緩和してはどうか。

<事務局> すでにこの基準で休園した保育園がある。休園を回避する活動をしてきた地域もある。ここで緩和しては不公平感につながる。

<委員> 小規模保育園の未来を見据えると経営が成り立つのだろうか。ビジネスとしてやるには難しいのでは。始めてはみたけれど、ダメだったと言えるものでもない。

<委員> 私立や民間保育園は、保育ニーズをもとにサービスを展開しやすい。  
預けられる子どもの人数が増えれば、働く人も増えることにつながる。  
経験豊富な保育士が、仕事を続けていける。など、メリットがある。当然、デメリットもあるが、公立であれ、私立であれ子ども達にとって最初の集団生活の場であり、親にとって安心して子どもを預けられる場でなければならないことは同じ。

<委員> 定員割れの保育園を民間に委ねても経営の状況は変わらない。建物は市が管理していくのか。10年後の見通しはあるのか。

<委員> 小規模保育園を民間が運営していくのは難しいのではないか。小さな保育園こそ市がすべきではないか。大きな規模の保育園ならば経営的に成り立つだろうし、そうした園を民間に任せていったら良いのではないか。

<委員> 先進事例を参考に他地区に学びながら存続を考えて欲しい。

<委員> 保育ニーズをつかんで、独自性や保育サービスの多様性などソフト面を大切にしていってほしい。

<事務局> 話し合いの内容が保育サービスに及んでいることから、保育園の独自性について、これまで検討してきた内容についてのまとめを説明。

<委員> 小さな保育園であるが、お泊り保育、市民踊りに参加した時は、夜遅くまで親たちと一緒に準備をするなど、子どもや親と保育園の距離が近いのは小さい保育園ならではのと思う。家庭的な中で、ふれあいを大切にしながら保育をしている。小さいからこそコミュニケーションを取りやすいという面もある。

子どもも親もそれぞれ個性があり、大きな保育園では馴染めない子ども、親から「小さな保育園があっよかった」と言ってもらえることがある。

<委員> 独自性が先にたつて保育の質が下がってはいけない。保育の質を落とすことなく地域の独自性を活かした保育が行えれば良い。

<委員> 入園時に保育園を選んだ理由を聞いて理解できているか。

<事務局> 公立保育園に大小はあっても保育サービスに差はない。希望する保育園のみ。  
保育理念やサービスは同じ。同じ上でそれぞれ保育園の特徴が出せるような努力をしている。

<委員> 公立、私立それぞれの良いところを述べ、選択肢としてまとめてはどうか。

今回の意見を反映してまとめ直す。過程で提示するので意見をいただきたい。

